



バラの会
くすのき しんすけ
楠 晋典 議員

教育行政

Q 子供の貧困対策として、全国的にこども食堂が急増している。本市における状況は。

A 月に一度と年に数回の2か所の福祉施設で開催しておられる。

Q 土日の学校が休みの日の昼にご飯を食べていない子供がいる。子供たち自身が、ご飯を炊いたり、おかずをつくれるようなそのような授業はできないか。

A 発達段階を考慮し5年生から調理の授業を行っているが、火を使うとなると大きな問題となる可能性があり、難しい。

Q だからこそ、火を使わなくてもいいおかずを作れるよう、親子で参加できる授業をしてはと要望する。

Q 本年度の市民音楽祭から小・中学校の部が廃止された理由は。

A 令和2年度から外国語授業の時間が完全実施されるため、授業時間の捻出のためにやむなく廃止した。

Q 昨年、小大会も廃止され、教室での授業以外の運動や音楽などの文化的なものが次々となくなっている。市民音楽祭は、文化会館の大ホールの舞台に立つ経験は非常にいいものである。頭でっかちな授業ばかり増えて、子供の心と体のバランス、個性は十分に育てられているか。

A 学校そのものが法で定められた知識や社会性・道徳性などの心身のバランスをはかりながら教育全体で行っており、バランスが大きく崩れるとは全く考えていない。

Q 全国一斉の学力テストがあるが、公表される点数の比較によって、結果が先走りしている状況だと思う。このテストのための学習やプレテストは全体でどのくらいの時間が使われているのか。

A このテストは4月に行われるが、年間の授業を通してこれに対応している。

【その他の質問項目】

◇市職員の人事について

◇公用車について



庶民の会
たねむら しげのり
種村 繁徳 議員

農林水産業費の成果

Q 有害鳥獣対策について。

①本市の農作物被害状況とイノシシの捕獲頭数の推移は。

②県全体の捕獲は1万4000頭余り、被害額は2億円以上。県はイノシシ捕獲隊を組織しているが、本市の状況は。

③国は防疫体制に力をいれ、最大2分の1補助を3分の2まで引き上げる予定。県にも支援制度を要望してはどうか。

A ①捕獲対策後、被害額が平成19年度約630万円から30年度約210万円に減少。捕獲頭数は231頭が573頭に増加。

②本市では猟友会に委託。宇土山地区においてイノシシ捕獲隊が設置される予定。県費で定額5万円の補助がある。

③1頭当たりの捕獲料金は1万円。そのうち2500円の県負担が本年度からなくなる。支援制度について、県に要望したい。

Q 雇用労力支援について。

農援隊等で人材の確保に努めてきたが、県が設立した外国人派遣会社工又と農協との関係は。

A 外国人の雇用も一つの人材確保対策ということで、県、(株)アソウヒューマンセンター、県農協中央会の三者が出資して設立。安定的な労働力の確保が図られると期待。

Q 産地パワーアップ事業について。

農業者にとって有利な補助事業である。ほ場整備等にも活用しながら、農業者への手厚い支援を。

A 大根選果場をはじめ、この事業で整備を行ってきた。今後も、県に制度の存続を要望したい。

長崎県病院企業団 島原病院

Q 令和3年度までの期間で小児科が再開したが、医師不足をクリアしないと子育てに不安が残るのではないか。

A 医師の確保は優先課題である。先頭に立って進めていきたい。

Q 島原病院全体の経営状況は。

A 病院企業団は4年連続、島原病院は3年連続赤字。本年度は血液内科診療が再開されたので好転すると思われる。

【その他の質問項目】

◇市税の収納率について